

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	セクシュアリティの地理：進展のレビュー
Author	ビニー, ジョン / バレンタイン, ジル / 杉山, 和明[訳]
Citation	空間・社会・地理思想. 5 巻, p.105-117.
Issue Date	2000
ISSN	1342-3282
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学文学部
Description	Progress in Human Geography, 23-2. 1999, pp.175-187.
DOI	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

セクシュアリティの地理

—進展のレビュー—

ジョン・ビニー^{*}, ジル・バレンタイン^{**}

(杉山 和明^{***}訳)

Jon BINNIE and Gill VALENTINE

Geographies of sexuality: a review of progress

Progress in Human Geography, 23-2, 1999, pp. 175-187.

摘要：本稿は、近年急速に増加しているセクシュアリティの地理に関する業績を検討するものである。筆者たちは、セクシュアリティが社会・文化地理学内において重要な関心分野となってきた一方で、全体として、ディシプリンのなかにあるホモフォビアを攻撃するためになされるべきことが多く残っていると主張する。ホモフォビアが深く根付いているにもかかわらず、研究対象としてのセクシュアリティがディシプリンに取り込まれるようになってきていることの内にある安易さを、本稿は批判するのである。筆者たちは、フェミニスト地理学がこの点でいかに助けになり制約にもなるのかを議論していく。セクシュアリティの地理に関する業績の進展について展望しながら、本稿は、わたしたちがレズビアンとゲイの空間を単純に地図化することから離れ、セクシュアリティを異にする人々のあいだにある差異をより批判的に扱っていかなければならないことを主張する。最後に筆者たちは、この新たな分野での仕事を確かなものにするために、ディシプリン以外の著作家たちとの繋がりを一層強固にしていくよう主張する。

キーワード： フェミニスト地理学、ホモフォビア、レズビアン地理、クイア・ポリティクス、セクシュアリティと空間

1 序論

本稿は、地理学におけるレズビアン・ゲイ・両性愛といったセクシュアリティに関する業績が増加していることを評価するものである。この分野の出版物は急速に増えている。Kath Weston (1995) や Elspeth Probyn (1995; 1996) のような、地理学以外のディシプリンにおいてセクシュアリティについて語る多くの著作家たちが、今やますます空間と場所に関して記すようになってきている。そのため、レズビアン・ゲイ・両性愛といったセクシュアリティに関する研究に対して、地

理学が貢献している特徴的な事例を検討してみたいと考えている。わたしたちは、その分野の権威となることを主張したいわけではなく、文献のレビューが、こうした主題に初めて取り組もうとする人々の助けになるかもしれないと感じているだけである。展望を試みることによって、この新たな文献群に漏漏、排除、不備があることをはっきりと示したいのである。さらに、セクシュアリティがどれほど社会的、文化的、経済的そして政治的な変容を支えてきたのかについてわたしたちの理解を深めさせるうえで、セクシュアリティの地理がなしてきた貢献を見定めてみることにしたい。

わたしたちは、最も多くの仕事が行われてきた3つの鍵となる分野のレビューに焦点を合わせる選択をし

* ジョン・ムーアズ大学 ** シェフィールド大学

*** 名古屋大学・院

た。すなわち、都市地理学；都市／農村、対立の地理；市民権の地理である。これらの分野においてセクシュアリティに関する論題が言及されるようになったのは、それらの分野に、フェミニスト批評やポストモダン批評に対して非常に理解があり、それゆえにセクシュアリティに関する業績に対して最も寛容である人々がいた、という事実を反映している。

II 都市地理学

セクシュアリティと空間に関する最初期の業績は、北アメリカの都市において最も目につきやすいレズビアンとゲイの空間を地図化しようと試みたものである。Loyd and Rowntree (1978) と Weightman (1981) が、「ゲイ景観」(ママ)の地理を出版したことを嚆矢とするが、一方で何よりも広く言及されるのは Manuel Castells (都市社会学者)の業績である。『都市とグラスルーツ』のなかで、Castells (1983) は、サンフランシスコにおけるレズビアンとゲイの空間に関する研究から重要な事柄を紹介した。この業績は非常に解かりやすく疑いようもなく「空間的」であった。特定のゲイ男性にとっての近隣や商業地区の境界が、地図上の点によって記され明らかにされた——諸々の点は、ゲイの案内人や職業上の名簿を通じて細かく探り出された、レズビアンとゲイが集うバーとその他の業種に関連した施設であった。Castells は、ゲイ男性の地理やレズビアン地理が、それぞれのジェンダー役割やジェンダー化された行動を反映していると主張したのだった。ゲイ男性は主に男性として行動するので、それゆえにより領域的であり、より多くの自由に使える所得を持ち、可視的な空間的に規定された商業的空間を求めることになる。レズビアンは主に女性として行動し、領域的ではなく、商業施設よりむしろインフォーマルネットワークを頼りにし、ゲイ男性よりもより政治化されており、フェミニストのネットワークのなかでレズビアン空間を創造するというのである。レズビアンとゲイ男性「のように見える」人々両者についての Castells の仮定から結論づけられるのは、レズビアンとゲイ男性が互いにそして異性愛者の社会ともかけ離れた生活を営んでいるということであった。今日、これらの短絡的な仮定は非常に問題があり、とても支持できるものではないとみなされよう。

サンフランシスコについての Castells の業績は、ゲイ・アイデンティティにとって空間的な基盤が存在しているということ、つまり、ゲイの男性が特に都市のジェントリフィケーションにおいて、もっと一般的に言えば、北アメリカの諸都市におけるいわゆる「アーバン・ルネッサンス」において重要な役割を担っていたという事実に対して、都市社会学者と都市地理学者の関心を少なくとも引き出したのである。サンフランシスコについての Castells の業績以降、都市再生におけるゲイ男性の役割を検討した作家は、都市社会学や都市地理学内では驚くほど少ない。Larry Knopp はこの分野で最も精力的であり続けており、ニューオーリンズやミネアポリスで研究を行いながら、都市のポリティカル・エコノミーにおけるゲイ男性の関わりについて一連の論文を発表してきた (Knopp, 1987; 1990a; 1990b)。近年では Benjamin Forest (1995) が、ウェストハリウッドにおけるゲイ・アイデンティティ、空間そして場所のあいだにある複雑な関係に焦点を当てている。

ごく最近まで、レズビアン都市コミュニティは、こうしたゲイの男性空間についての研究のなかではまったく無視されてきた。しかしながら、Sy Adler や Joanna BrenrLer による、アメリカのノースウェストの都市にある特定はされていないレズビアン・コミュニティに関する研究は、レズビアンアイデンティティと行動についての Castells の短絡的な仮定に異議を申し立てたのである (Adler and Brenner, 1992)。論文のなかで彼女たちは、レズビアンは確かに当該の都市において特定の近隣に集中するが、しかしこれらの「コミュニティ」は、「外見上は不可視」であり一時的なものにすぎないと主張したのだった。これらの特徴は、他の北アメリカ、イギリス、フランスの諸都市にあるレズビアン居住地区についての研究にも見受けられた (たとえば、Ettore, 1978; Davis and Kennedy, 1986; Winchester and White, 1988; Peake, 1993; Valentine, 1995 を見よ)。実際、Ettore (1978) と Peake (1993) の二人は、レズビアンにとってのローカルな領域的基盤を確立することの政治的意味を例証している。Peake (1993: 427) は、アメリカのレズビアン居住区域であるグランドラピッズ (Grand Rapids) について記述するなかで、「レズビアン居住地区の形成は、男性との関係を媒介しない都市居住地区に移り住むことを確保

するために意図された、政治的行動を象徴している」と述べている。

ニューヨークのブルックリンにあるパークスロープ (Park Slope) レズビアン・コミュニティについての Tamar Rothenberg による業績は、今までのところ、実際に存在するレズビアン・コミュニティを扱った最も洗練された事例である (Rothenberg, 1995)。彼女の研究の中心をなしていたのは、レズビアン・コミュニティを構成するものは何なのかという全体的に極めて問題の多い関心であった。Rothenberg (1995) が主張するには、経済的な要素、特に安価な借家の可用性がレズビアンによって同定された近隣の発展を実現させ、影響を与えたとする一方で、パークスロープに付与されてきたレズビアンによるコミュニティのイメージや「象徴的な」意味もまた、「アメリカにおいておそらく最も巨大なレズビアンたちの集中する」地域となったこの近隣の成長と発展を促進させてきたのである (1995: 169)。Rothenberg (1995) の研究は、都市についての業績がレズビアンやゲイ男性を扱うことによってより洗練されてきた、という事実をあらわしていよう。こうした仕事は、今や、空間のポリティカル・エコノミーとセクシュアリティのポリティクスとのあいだのより広範な関係をも検討しており、Knopp は一連の研究以降、より広いコンテキストにおいてセクシュアリティと資本主義とのあいだの関連を探求しようと試みてきた (Knopp, 1992; 1995)。加えて、多くの著作家たちが性愛化された消費文化と性愛化された空間の生産とのあいだにある関連を探求してきたのである (BirLnie, 1995a; 1995b; Mort, 1995; Munt, 1995 を見よ)。

同様に重要なのは、主要な北アメリカのゲイ・センターの外にある性愛化された都市空間を検討する仕事が増んになってきていることだ。1990年代にイギリス諸都市の都心にあるゲイ・ビレッジが劇的に成長し発展したことに応えようとして、ロンドンのソーホーについての仕事 (Binnie, 1995a) や、マンチェスターの「ゲイ・ビレッジ」に関する一連の研究 (Corton, 1993; Hindle, 1994; Whittle, 1994; Quilley 1995) がにわかに行われるようになった。イギリスや北アメリカ以外にも、アムステルダムについていくつかの研究があり (Duyves, 1992a; BinrLie, 1995a)、他の北ヨーロッパに目を向けるものでは、Henning Bech (1992; 1993) の業績がある。Matthias Duyves (1992a; 1992b; 1995) と Jon

Binnie (1995a) はともに、レズビアンとゲイのツーリズム現象を検討しているが、近年ではその経済的な潜在力が多くの地区で認識されてきている。

それ以降、最近の業績は、レズビアンとゲイの地理に対する射程を、都市景観をより物的に明示することを越えて、レズビアンのインフォーマルネットワークや慣習 (Valentine, 1993a; 1993c)、および日常生活における多様なアイデンティティの管理 (Valentine, 1993b) を検討する方向へと拡大していつている。目に見えるゲイの近隣や都市内部の消費空間を明らかにしていく初期の業績とは対照的に、これらの研究は、レズビアン/ゲイ・コミュニティの目に見えにくい側面を研究する重要性を強調しており意義深い。同様にカナダの地理学者である Celeste Wincapaw (forthcoming) の業績もまた、レズビアンやゲイの「コミュニティ」に関する地理学的な理解を深めている。「現実の時間」の対面的なレズビアン・コミュニティに焦点を合わせることもよりも、むしろ彼女の調査は、インターネット上にある「レズビアンを対象とした」電子メーリングリストのバーチャルスペースでの、レズビアンや両性愛者によるアイデンティティの交渉を探求し始めているのである。こうした業績は、アイデンティティとパフォーマンス性について論じている急速に進展したカルチュラル・スタディーズの文献に多くを負っているのだが、しかしまた、複雑な方法で「レズビアン」の空間概念を理論化しようとしており、社会科学における他のディシプリンの仕事を活性化しつつそれらに活性化されるような、地理学的な仕事にとっての新しい可能性を提供している。わたしたち地理学者は、Duncan (1996) や Ingram *et al.* (1997) のエッセイで例証されているように、性的な「コミュニティ」が想像され交渉され争われるような多元的で流動的な様式を理解するうえで、「地図上の点」を記すことから実に長い道のりを歩んできたのである。

III 都市/農村、対立の地理

1990年代の中頃、セクシュアリティの地理に関する仕事にとっての具体的な焦点として、農村への関心が盛り上がった。ノースダコタのレズビアン/ゲイ・コミュニティについての Jerry Lee Kramer の先駆的な業績 (Kramer, 1995)、そしてイギリスの農村についての

David Bell と Gill Valentine による業績 (Bell and Valentine, 1995a) がともに、セクシュアリティに関する地理学的な仕事に重大な進展をもたらし、空間と場所の問題を考察するうえでレズビアン/ゲイ・スタディーズの必要性を明らかに強めたのである。Bell と Valentine (1995a) は、農村研究がレズビアンとゲイ男性の経験を検討することをこれまでずっと怠ってきたと主張する。農村におけるセクシュアリティの地理についてのこれらいくつかの研究は、レズビアンやゲイの生活が都市環境において営まれているとする仮定をわたしたちがいかに自明視してきたのか、を例証している。レズビアンやゲイの経験の都市性は、実際には農村と対比される時にだけ明らかになる。「クイアの故郷」で Bell と Valentine (1995a) は、レズビアンやゲイの農村における生活や経験についての地図を描いている。ユートピアであると同時にディストピア——逃避ためのもしくはお似合いの場所であるとともに、そこから逃げ出す場所——として、性幻想のなかにある農村が持つアンビバレンスをかれらは強調する。そうすることによってかれらは、農村環境のなかで育てられ農村の抑圧的な道徳景観から逃避し都市に移住するようなレズビアンやゲイ男性と、都市よりも農村のライフスタイルを好ましいものとしてむしろ積極的に求めて田園地方に移住するようなレズビアンやゲイの都市居住者とを区別したのだった。農村コミュニティで育てられた人々にとって、都市は、自身をレズビアンもしくはゲイとして明確に定義するために逃げ込む場所としてみなされる傾向にある。他方、積極的に農村の生活を選択する人々にとって魅了するものは多岐に渡っているのだが、移住の動機はあまり明らかになっていない。

1970年代には、レズビアン分離主義者のコミュニティがアメリカの農村部に確立した。これらのコミュニティは、民俗的な農村のユートピア主義に固執していた。これらのコミュニティに住む多くの女性の成員は、都市の建造環境が持つ自明視されているマスキュリティを備えた、男性の作りあげた都市に対しての拒絶を具現化しているのかもしれない。ここでは、場所に規定されたアイデンティティが非常に重要である。社会的・政治的に発展したゲイ/レズビアン・コミュニティの基盤を欠いているために、農村地帯において同性愛の活動に関わる人々が、自分自身をレズビアンもしくはゲイとして明確に定義できないのかもしれない、

そのように Bell と Valentine (1995a) は主張する。インフォーマルネットワーク、電話交際 (telephone dating) そして野外セックス (cottaging) やナンパ行為 (cruising) が、これらのコミュニティにとっての農村の諸空間を構成しているのである。同性愛行為を楽しむ農村居住者は、都会のレズビアンもしくはゲイ男性とアイデンティティを共有していないのかもしれない。こうした知見は、レズビアンとゲイ男性の農村の生活に関するいくつかの事例研究によって補われている。

農村におけるセクシュアリティの地理についての魅力ある事例研究として、Jerry Lee Kramer は、ノースダコタにおける農村のレズビアン/ゲイ・コミュニティに関する研究を発表している。Kramer (1995:200) は、農村のセクシュアリティを検討するためにはレズビアン/ゲイ・スタディーズが必要であることを強調する。「ゲイ/レズビアン・スタディーズにおいて、都市部以外にいるゲイやレズビアン戦略・行動・動機についての経験的な研究は、多様なホモセクシュアルの経験に対してさらなる洞察をもたらすことができる」のである。ミネアポリス-セントポール大都市圏の「周縁部」であるノースダコタでインタビューを行ったことは重要であり、興味をそそられる。彼の研究の大半は、ゲイ男性に関心を寄せているものだが、しかし、セックスをするために他の男性と出会えるレストルームのような公共空間を少なくとも確保しているゲイ男性よりも、ノースダコタのレズビアンは一般的により孤立する傾向にあることを認識させたのである。Kramer (1995) は、レズビアンにとってたった1つの逃げ道がミネアポリスや他の大きな都市に訪れることだと主張したのだった。

「大都市へ行け」において、Kath Weston (1995) は、多くの人々がレズビアン/ゲイ・アイデンティティの感覚をいかにして作り出しているかということによって、都市/農村という二元論が非常に重要だと主張する。彼女は以下のように強調する (1995:255)。「この象徴的な対比は、多くのカミングアウトに関する物語の構成にとって中心的であった」と。Weston は、都市研究を通じて農村を理解することが可能であり有益である、と付け加えている。農村的なものと都市的なものを独立させて研究することなどできない。Weston の業績は、ゲイのイメージの生産において、農村と都市のあいだの緊張に焦点を合わせている。しかしながら、

他の研究と異なり Weston の研究は、レズビアンとゲイ男性にとっての農村の生活についてよりベシミスティックな見解を描き出しているのである。

Kramer (1995) と Weston (1995) の業績がともに示唆しているように、レズビアンとゲイの生活やアイデンティティにおいて、移住の意味が一層注目される必要がある。Bob Cant が創作されたアイデンティティを紹介するくだりで言うように、「レズビアンとゲイ男性は、集団のアイデンティティを確認することができるいかなる祖国もないという点で、移住する他の集団とは異なっている」のである (Cant, 1997: 1)。18 人のレズビアンとゲイ男性の個人誌を編集するなかで、Cant (1997) は、レズビアンとゲイの移住者は、偏見を逃れるためそしてアイデンティティを創出するために移住する、といった共通の経験を分かち合っているとする一方で、こうした経験の多様性や、特に移住にかかわる経済的制約の重要性を懸命に例証しようとしている。ロンドンのゲイ男性の移動性についての興味を引かれる調査、『あなたはどれだけ遠くに行くのか』(Kelley *et al.*, 1996) が、London-based Gay Men Fighting AIDS (GMFA) によって出版されたが、その調査は、ロンドン——イギリスのゲイ文化にとって主要な都市——へ向かうゲイ男性の移動やまたはその内部での移動にみられる複雑なパターンを指摘している。GMFA の調査の結果、インタビューを受けたゲイ男性のうちもとからロンドンに住んでいたのはたった 23% であり、ゲイの居住者はイズリントン (Islington)、ハクニー (Hackney)、ウォンズワース (Wandsworth) のようなインナーロンドンの自治区に集住する傾向があることが例証されたのだ。もちろん、レズビアン・ゲイ男性・両性愛者の移住を促すのは、農村—都市の差異もしくは地域的な差異だけではない。次章では、国際的な移住とセクシュアリティの権利とのあいだにある関係を考察していく。

IV セクシュアリティの権利の地理

地理学者たちは、セクシュアリティと国家との関係——いかにして、セクシュアリティと国家が異なる空間スケールにおいて相互に構成し合うのか——を理論化し始めている。空間スケールや、どのようにしてセクシュアリティの権利が異なるスケールで構築される

のかについて焦点を当てるのが、バンクーバーにおけるエイズ活動家に関する Michael Brown の研究では主な強調点となっている (Brown, 1994; 1995a; 1995b)。David Bell は、イギリスにおけるパブリック・セックスのポリティクスや、スパナ手術裁判 (Operation Spanner trial) を通じて確かな市民権が構築され競合されるあり方を検討した (Bell, 1995a; 1995b)。これらの研究は、これまでセクシュアリティを無視してきた都市・政治地理学へ異議を唱えている。それらはまた、社会理論や法理論において、より一般的にセクシュアリティと国家への関心が増大していることを反映してもいる (Cooper, 1994; 1995; Stychin, 1995; Wilson, 1995)。これらの研究の多くは空間的なもの無視しているが、一方で、それ以外の研究にとっては、公的・私的空間の問題や空間概念を展開することが議論の中心となっているのである。たとえば、現代イギリスのニュー・ライトの言説にある民族やセクシュアリティが持つ象徴的な中心性についての研究で、Anna Marie Smith (1994) は、空間、アイデンティティそして差異に関してデリダ主義者のパースペクティブを展開している。彼女は、戦後のイギリスにおけるナショナル・アイデンティティの生産が、他者性の排除、特にパウエリズム下の黒人移民と、さらに、サッチャリズム下のクイアなどの表象を排除することに依拠していた、と主張する。Shane Phelan (1995) もまた、クイア・ポリティクスの脱構築的な読みのなかで空間について論じており、一方で Leslie Moran (1996) は、イギリスの法におけるセクシュアリティの位置付けに関する洗練された研究のなかで、競合しパフォーマンス的な空間の利用について検討している。『法のなかのホモセクシュアリティ』で Moran は、いかにしてイギリスの法が、公的空間と私的空間のあいだの区別、つまり男性間のパブリック・セックスを規制することによって強化されるようなある区別を作り出しているのかについて関心を寄せている。漠然とした現実の空間、というかたちで公益をもたらしている空間に焦点を当てながら (Woodhead, 1995 でも議論されているが)、Moran (1996: 141-42) は以下のように主張する。

公的であり性愛化されてはいない便益というのは、私的な出会いのある性愛化された空間を伴って、いつもすでに想像されている。つまり、まさにその私的な空間の存在が、排尿/排便をめぐるタブーや、そのタブーが今や私的なも

のとしてみなされなければならないという事実だけではなく、こうした目的を私的な空間へと移すこと自体が他の私的な危険を生み出すことになっているという事実をも、物語っているのである。そうした空間が持つ私的かつ性愛化された本質は、男の空間と女の空間のあいだを分割することにおいて記述される。自然の光を提供しはするが、私的なものが公にさらされることを阻むような磨りガラスを用いるなかで。ストールをデザインするなかで。放尿という私的な行為の個性性を守るためにストールとストールのあいだに障壁を設けるなかで。空間を個人的で私的な小部屋へと分割するなかで。そうした個人的な空間などを守るために鍵がかけられるドアを用意するなかで、である。

Moran のような法学者たちが、セクシュアリティ、公共秩序そして空間のあいだにある関連を探求する一方で、建築やセクシュアリティに関して進展しつつある著作のなかでは (Colomina, 1992; Sanders, 1996; Urbach, 1996)、建築物が正しい社会秩序に対する関心をいかにして具現化するのかについて検討されている。他の著作家たちは、パブリック・セックスの規制について検討している (Califia, 1994; Dangerous Bedfellows, 1996)。

レズビアンやゲイの地理に関する著作についてのこれまでの議論から、レズビアンとゲイ男性の生活において、運動や移住が重要な位置を占めていることは明らかだ。しかしながら、セクシュアリティの権利や国際的な移住を扱った研究は少ない (例外として、Jessurun D'Oliveira, 1993; Chauvel, 1994 を見よ)。レズビアンやゲイ男性にとって、国家の境界を越えて移住することは、同性愛関係に基づいた完全な市民権を得ることに限っては特に、非常に大きな問題のあるものとなるだろう。セクシュアリティの文化において、国家間の次元についての議論はほとんど行われていない。国際的な移住とツーリズムについての Binnie の業績は、消費とセクシュアリティの権利とのあいだにある繋がりを示唆している (Binnie, 1995a; 1997a)。一様に裕福で移り気であるといったステロタイプにゲイ男性を当てはめようとする衝動を我慢するのは、一部の人々にとって困難であろうし、また、居住権や市民の地位を求める同性のパートナー同士を認知しようとしめない法が存続していることが、国家間の境界を越えたレズビアンとゲイ男性の移動にとっての障壁を体現しているのは明らかである (Valentine, 1996)。

セックス・ツーリズムに携わる西洋のツーリストについての現実からかけ離れたいくつかの説明のなかで、

しばしば暗に存在しているホモフォビアに対し、国家間のレズビアンとゲイのツーリズムに関する仕事は挑戦する必要がある。Lynda Johnston (1996) は、地理学のようなディシプリンの内にある研究分野としてのツーリズムに異議を申し立てており、そのような研究は覇権的で現実からかけ離れたマスキュリニストの知を生産していると主張する。ニュージーランドの最も大きなゲイのプライドパレードであるヒーローパレード (HERO parade) や、オーストラリアのシドニー告解火曜日 (Sydney Mardi Gras) についての彼女の業績は、ツーリズムやそれを包含する複雑な権力関係についての新たなパースペクティブを提供している。Johnston (1996) の調査は、こうしたフェスティバルの研究に対し具体的なアプローチを用いることによって、ツーリズムの言説が持つマスキュリニズムを覆すばかりでなく、Binnie and Bell の業績のように、ディシプリン内でのコミュニティ研究というゲッターからセクシュアリティを開放する意義深い試みを示している。そして、セクシュアリティを、人文地理学が問題にしているあらゆる側面において考察されるべき根元的な問題とするような道への、新たな一歩を画しているのである。

これまで議論されてきた業績の主要な特徴の1つは、特に北アメリカおよび英国といった英語圏の著作家が優位を占めていることなのだが、しかし、おそらくフェミニスト地理学およびセクシュアリティと空間についての最も革新的な業績のいくつかは、今やニュージーランドのハミルトンにあるワイカルト大学の地理学者たちによってもたらされている (Longhurst, 1995; Peace, forthcoming)。レズビアンとゲイの地理学者が持つ自民族中心主義と、先進国に対するかれらの先入観を批判しながら、Glen Elder (1995: 57) は次のように問うている。「周縁的な経済においてセクシュアリティはいかに構築され交渉されるのか、さらにこれらの空間的過程は、いかにしてとりわけ『第1世界』の状況下において『ゲイとレズビアン文化』の出現に寄与しているのだろうか」と。残念ながらこれらの疑問に対しては、まだわずかな応答しかない (例外として、Robson, 1991; Bravmann, 1994; Murray, 1995; Skelton, 1995; Drucker, 1996 を見よ)。

こうしたサブセクションのおのおのにおいて、地理学的研究の特定分野での進展が考察されてきたのであ

り、そこでは、セクシュアリティ、行為、アイデンティティならびに空間と場所とのあいだの相互作用が最も優先されてきたのである。民族と国家についての議論は——コミュニティ研究も示しているように——、均質で普遍的なレズビアンやゲイのアイデンティティとかコミュニティといった観念が、政治と理論の両者において受け入れがたいものとなってきたことを示唆している。ここで、クエア・ポリティクス／理論によって主張された異議申し立てに光を当てながら、レズビアン／ゲイ・アイデンティティのポリティクスを批判的に評価しようとする、地理学者によって行われた業績について議論してみたい。

V クエアの地理：アイデンティティ・ポリティクスに伴う困難

地理学者が、クエア理論やセクシュアリティの実践に基づく広範囲に渡るパースペクティブを探求するようになったのは、ごく最近のことである。これは、上に概要を述べたような、レズビアン／ゲイ・アイデンティティについての無批判的ですがべてを一括してしまう概念を使っていた、レズビアンとゲイの地理に関する初期の業績に対する反動である。そのためクエアの地理は、アイデンティティ・ポリティクスが望ましいものなのかを吟味しようと試みてきた。Bell *et al.* (1994)、Julia Cream (1992; 1995)、Alison Murray (1995) のような著作家による仕事は、固定したアイデンティティという確立された観念に挑戦している。David Bell が両性愛の地理をマッピングしたことは、従来は両性愛を無視してきた、レズビアンとゲイの地理が持つ覇権を覆したという点で重要だ (Bell, 1994)。Bell にとって両性愛は、まさに周縁にある場所だったのである。クエア・ポリティクスや、レズビアンやゲイの地理において両性愛が抱える没場所性とホームレス性に異議を唱えるなかで、Bell は、レズビアンとゲイの空間において両性愛者はツーリストである、といったような両性愛嫌悪の考えに対して力強い批判を提出している (Bell, 1994)。彼は、アイデンティティを覆すクエアの反逆的なプロジェクトに対し共感しているが、しかし一方で、クエアのユートピア主義、特に、クエア・ポリティクスが他の異論の多い問題のなかで「人種」と両性愛の議論を一層周縁化しつつ、ほとん

どそれ自身のパロディとなってしまっている事実に対しては、非常にシニカルでもある (Bell, 1994)。

セクシュアリティや、「人種」やレイシズムの地理に明確に関心を寄せる研究は数少ない (例外として、Peake, 1993; Davis, 1995; Skelton, 1995 を見よ)。さらに、「人種」やレイシズムを研究する地理学者たちも、人種とセクシュアリティとの交差についての論題が他分野で増えているにもかかわらず、議論のなかでセクシュアリティを無視している点では、非難に値しよう (たとえば、Gilman, 1985; Mercer, 1993; Smith, 1994; Smyth, 1995 を見よ)。障害は、セクシュアリティと空間に関する地理学的研究において、無視されたもう一つの分野である (例外として、Butler, forthcoming を見よ)。地理学外の仕事は、ホモフォビアと障害者差別とのあいだの繋がりに取り組んできた。『明かされていない欲望：障害のセクシュアル・ポリティクス』において、Tom Shakespeare, Kath Gillespie-Sells and Dominic Davies (1996) は、障害者運動のなかでのホモフォビアと、レズビアンとゲイを取りまく状況のなかにある障害者差別をとともに考察する出発点を示している。セクシュアリティと障害についての研究がある一方で、それらが障害者自身の経験を認めることを怠っている、とかれらは主張する (1996: 3) :

セクシュアリティや障害の問題にかかわる産業生産労働がまさに存在しているが、それは医学的、心理学的そして性科学的な経歴を持つ専門家によって制御された産業であり、ほとんどすべての場合において、そこでは障害を持つ人々の声や経験が欠如している。他の分野においても、障害を持つ人々は主体としては排除され、対象としては崇められるのである。

レズビアン／ゲイ・アイデンティティという概念へのこうした批判が、クエアの地理の一例を象徴的に現している。その一方で、第2の潮流となっている業績は、アイデンティティ・ポリティクスを批判するクエア理論の理論的な洞察が、空間の議論にいかんして適用されるのかを理解しようとしているものである。「すべてが見せかけで、向かうべき場所は存在しない」(All hyped up and no place to go) において、Bell *et al.* (1994) は、Judith Butler (1990) の仕事にインスピレーションを受け、ジェンダー・アイデンティティのパフォーマンスにおいて空間の特殊性が意味するものを

探求しようとしている。ジェンダーとは、自己が何者かであるということの単なる一側面ではなく、他者との相互作用のなかで自己が反復的に行なっている何かである、とする Butler の概念を援用して、Bell たちは、同様の主張が空間の生産に関してもなしうるかどうかについて見極めようとする。Butler (1990) が、パフォーマンスとしてのジェンダーはセックスによってもはや制限されることはないとする一方で、Bell *et al.* (1994) は、公共の異性愛的な空間が、異性愛に限られなくてもよいことを示唆している。リップスティック・レズビアンやゲイ・スキンヘッドの例を用いて、かれらは、それぞれのアイデンティティのパフォーマンスが、正常な空間の異性愛を混乱させることができるかどうかについて問う。そして、「強制的異性愛からその自然さやオリジナリティを希求する主張を篡奪するのは、パロディックな競合とディスプレイの場である」という Butler (1990: 124) の言葉を疑問に付しているのである。かれらの論文を結論づけるとすれば、アイデンティティのクイア的な反逆や転覆を賛美するようなポリティクスについて、Bell たちはいまだアンビバレントでありつづけており、このことは、こうしたアイデンティティのパフォーマンスが、異なる場所にいる異なる人々によって、異なって読まれることを示している。この論文は、そしてこの論文に敬意を持って返答することは、多様な身体と物的な空間とのあいだにある緊張を通じて思考することの限界を例証しているのである。

VI 結論

本稿の後半では批判的な論調になったが、ここ十年間にセクシュアリティの地理が大いに発展してきたことを例証できたと思っている。非主流のセクシュアリティを持った人々の生活についての研究の進展は、都市地理学；農村に住むレズビアンとゲイの地理；セクシュアリティの権利の地理学といった3つの鍵となる分野で、最も目覚ましく顕著であった。これらの分野のおのおのにおいて、レズビアン・ゲイ・両性愛者の生活や、地理学的知が持つヘテロで規範的な本質に対し、異なる性的指向を持つ人々が影響力を持ち始めている兆候を地理学的に理解していくうえで、意義深い

進展が見受けられた (Binnie, 1997b)。

セクシュアリティの地理に関する仕事は、物的なものや日常的なものとの両者、つまり、どのようにしてセクシュアリティは特定の場所と空間において生きられるのか、を強調することから始める必要がある。こうしたことが、セクシュアリティに関心を持つ他のディシプリンに対して地理学者が提供することのできる主要な貢献だといえよう。より広範な政治・経済的な議論からセクシュアリティのポリティクスについての考察を分離するような、いつかのポスト構造主義者によるクイアに関する著作に見られる傾向に、地理学的な仕事は矯正策を与えるのである。よりコンテキスト化されたセクシュアリティの地理が強調するのは、セクシュアリティのポリティクスが孤立して扱われるべきではなく、性愛化された空間の生産において広範な政治・経済的な諸力と思惑が機能している、ということなのだ (Binnie, 1995a; Quilley, 1995)。Michael Warner (1993: x) が、『クイアの惑星の恐怖』の序論で主張するように、「クイア・スタディーズの活力は、社会的なものを再考することからよりも、セクシュアリティの主体的な意味を再考することから生まれてきている」のである。より重要な社会的もしくは物的な次元を含んだクイア理論を新たに表明するうえで、地理学者は中心的な位置を占めることができるであろう (Warner, 1993)。なかでも Richard Cornwell (1997) によって表明されているように、セクシュアリティの文化とコミュニティの形成に対する資本の重要性を認め、ホモフォビアによって生み出されている経済活動からの排除と周縁化があることを認めると同時に、一様に白人で富裕であるゲイ男性といった陳腐な前提のなかに暗に隠されているホモフォビアを認識するような、そうしたクイアの社会理論やクイアのポリティカル・エコノミーを創造することへの差し迫った要求があるといえよう。

現在、レズビアンとゲイのローカルなコミュニティに関して公表された論題は多数あるといっていいが、一方で、グローバリゼーションの過程とレズビアンやゲイの地理を関連させて記述したものは少ない。国境を越えた基盤を持つ性的アイデンティティ (Manalansan IV, 1995)、ナショナリズム (Mosse, 1985; Parker *et al.*, 1992)、そして帝国主義やグローバリゼーション (Hyam, 1990; Lane, 1995) について、地理学者

はいたるところで提出された論題から多くを得ることができるだろう。不運にも、これまでのところわたしたちは、これらの分野でセクシュアリティの地理についての業績を多く目にはしていないし、セクシュアリティや空間に関する著作が持つ偏狭な中心主義については、その大部分が異議を申し立てられないままにされている。

実際、地理学というディシプリンには多くの分野があり、たとえば交通地理学や人口地理学などでセクシュアリティに関する議論が欠如してきたことは注目に値する。異なるサブディシプリンを特徴づけている異なった哲学的アプローチに鑑みれば、地理学における非主流のセクシュアリティについての業績の一端ではない影響は明らかなのかもしれない。地理学は極めて相克しあう企てでありつづけている。社会・文化地理学が、進展する現代の社会理論（特に、「差異」についてのポストモダンの強調に関係する）に非常に寛容で、それゆえ非主流のセクシュアリティに対しても開かれてきた一方で、地理学的な問いに関わる他の多くの分野が実証主義者の伝統に執着したままだ。しかしながらこのことは、覇権的な性のアイデンティティである異性愛が、なぜ地理学者たちの関心をほとんど引くことがないのかといったことを説明してはいない（注目すべき例外として、Linda McDowell (1995) による都市の職場での異性愛的なマスキュリティについての業績や、レストランにおけるマスキュリティとフェミニティのパフォーマンスについての Phil Crang (1995) の業績がある）。おそらくその際にわたしたちが必要としているのは、空間をクイア的に読み解くことではなく、むしろ、地理学というディシプリン自体をクイア的に読み解くことなのである。

謝辞

初期の草稿に対し思慮深いコメントをくださった Susan Smith と二人の匿名レフェリーに感謝したい。David Bell に深く感謝する。

文献

Adler, S. and Brenner, J. 1992: Gender and space: lesbians and gay men in the city. *International Journal of Urban and Regional*

Research 16. 24-34.

Bech, H. 1992: The disappearance of the modern homosexual, or homo-genizing difference. Paper presented at the 'Sexual cultures in Europe' conference Amsterdam June. Available J. Binnie, School of Social Science, Liverpool John Moores University, Henry Cotton Campus, 15-21 Webster Street, Liverpool L3 2ET, UK.

Bech, H. 1993: Citysex: representing lust in public. Paper presented at the 'Geographies of desire' conference, Amsterdam, June. Available from J. Binnie, School of Social Science, Liverpool John Moores University, Henry Cotton Campus, 15-21 Webster Street, Liverpool L3 2ET, UK.

Bell, D. 1994: Bi-sexuality - a place on the margins. In Whittle, S., editor, *The margins of the city*, Aldershot: Ashgate, 129-41.

Bell, D. 1995a: Pleasure and danger: the paradoxical spaces of sexual citizenship. *Political Geography* 14, 139-53.

Bell, D. 1995b: Perverse dynamics, sexual citizenship and the transformation of intimacy. In Bell, D. and Valentine, G., editors. *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 304-17.

Bell, D., Binnie, J., Cream, J. and Valentine, G. 1994: A11 hyped up and no place to go. *Gender, Place and Culture* 1, 31-47.

Bell, D. and Valentine, G. 1995a: Queer country: rural lesbian and gay lives. *Journal of Rural Studies* 11, 113-22.

Bell, D. and Valentine, G. editors, 1995b: *Mapping desire. Geographies of sexualities*. London: Routledge.

Binnie, J. 1995a: Trading places: consumption, sexuality and the production of queer space. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 182-99.

Binnie, J. 1995b: The trouble with camp. *Transgressions: A Journal of Urban Exploration* 1, 51-58.

Binnie, J. 1997a: Invisible Europeans: sexual citizenship in the new Europe. *Environment and Planning A* 29, 237-48.

Binnie, J. 1997b: Coming out of geography: towards a queer epistemology. *Environment and Planning D: Society and Space* 15, 223-37.

Bravmann, S. 1994: The lesbian and gay past: its Greek to whom? *Gender, Place and Culture* 1, 149-67.

Brown, M. 1994: The work of city politics: citizenship through employment in the local responses to AIDS. *Environment and Planning A* 26, 873-94.

Brown, M. 1995a: Sex, scale and the 'new urban politics': HIV-prevention strategies from Yaletown, Vancouver. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 245-63.

Brown, M. 1995b: Ironies of distance: an ongoing critique of the geographies of AIDS. *Environment and Planning D: Society and Space* 13, 159-83.

Butler, J. 1990: *Gender trouble: feminism and the subversion of*

- identity. London: Routledge. バトラー, J. 著, 竹村和子訳 (1999) 『ジェンダー・トラブル: フェミニズムとアイデンティティの攪乱』 青土社
- Butler, R. forthcoming: Double the trouble, twice the fun? Disabled bodies and gay spaces. In Butler, R and Parr, H., editors, *Mind and body spaces: geographies of disability and impairment*, London: Routledge.
- Califa, P. 1994: *Public sex: the culture of radical sex*. Pittsburgh, PA: Cleis Press. カリフィア, P. 著, 東玲子訳 (1998) 『パブリック・セックス: 挑発するラディカルな性』 青土社
- Cant, B., editor 1997: *Invented identities: lesbians and gays talk about migration*. London: Cassell.
- Castells, M. 1983: *The city and the grassroots*. Berkeley, CA: University of California Press. カステル, M. 著, 石川淳志監訳 (1997) 『都市とグラスルーツ: 都市社会運動の比較文化理論』 法政大学出版局.
- Chauvel, C. 1994: New Zealand's unlawful immigration policy. *Australasian Gay and Lesbian Law Journal* 4, 73-84.
- Colomina, B., editor, 1992: *Sexuality and space*. Princeton, NJ: Princeton Architectural Press.
- Cooper, D. 1994: *Sexing the city: lesbian and gay politics within the activist state*. London: Rivers ORAM.
- Cooper, D. 1995: *Power in struggle: feminism, sexuality and the state*. Buckingham: Open University Press.
- Cornwell, R. 1997: Queer political economy: the social articulation of desire. In Gluckman, A. and Reed, B., editors, *Homoeconomics. Capitalism, community, and lesbian and gay life*, London: Routledge, 89-122.
- Corton, S. 1993: Anal street: Manchester's gay village -dissection of a 'community'. Undergraduate dissertation, University of Manchester. Copy available from the author, Department of Geography, University of Manchester, Oxford Road, Manchester M13 9PL, UK.
- Crang, P. 1995: It's showtime: on the workplace geographies of display in a restaurant in southeast England. *Environment and Planning D: Society and Space* 12, 675-704.
- Cream, J. 1992: Sexing shapes. In *Sexuality and Space Network Lesbian and Gay Geographies Conference proceedings*. Copy available from D. Bell, Department of Cultural Studies, University of Staffordshire, College Road, Stoke on Trent ST4 2XW, UK.
- Cream, J. 1995: Re-solving riddles: the sexed body. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 31-40.
- Dangerous Bedfellows, editors, 1996: *Policing public sex*. Boston, MA: South End Press.
- Davis, M. and Kennedy, E. 1986: Oral history and the study of sexuality in the lesbian community: Buffalo, New York 1940-60. *Feminist Studies* 12, 7-26.
- Davis, T. 1995: The diversity of queer politics and the redefinition of sexual identity and community in urban spaces. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 284-303.
- Drucker, P. 1996: 'In the tropics there is no sin': sexuality and gay-lesbian movements in the third world. *New Left Review* 218, 75-101.
- Duncan, N., editor, 1996: *Body Space: destabilising geographies of gender and sexuality*. Routledge: London.
- Duyves, M. 1992a: The inner-city of Amsterdam: gay show-place of Europe? Paper presented at the forum on sexuality conference, 'Sexual cultures in Europe', Amsterdam, June. Available from J. Binnie, School of Social Science, Liverpool John Moores University, Henry Cotton Campus, 15-21 Webster Street, Liverpool L3 2ET, UK.
- Duyves, M. 1992b: In de ban van de bak: openbaar ruimtegebruik naar homoseksuele voorkeur in Amsterdam. In Burgers, J., editor, *De uitstaad: Over stedelijk vermaak*, Utrecht: Uitgeverij Jan van Arkel, 73-98.
- Duyves, M. 1995: Framing preferences, framing differences: inventing Amsterdam as gay capital. In Gagnon, J. and Parkkr R., editors, *Conceiving sexuality: Approaches to sex research in a postmodern world*, London: Routledge, 51-66.
- Elder, G. 1995: Of moffies, kaffirs and pervers: male homosexuality and the discourse of moral order in the apartheid state. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 56-65.
- Ettore, E. 1978: Women, urban social movements and the lesbian ghetto. *International Journal of Urban and Regional Research* 2, 499-519.
- Forest, B. 1995: West Hollywood as ? symbol: the significance of place in the construction of a gay identity. *Environment and Planning D: Society and Space* 13, 133-57.
- Gilman, S. 1985: *Difference and pathology: Stereotypes of sexuality, race and madness*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- Hindle, P. 1994: Gay communities and gay space in the city, In Whittle, S., editor, *The margins of the city: Gay men's urban lives*, Aldershot: Ashgate Publishing, 7-25.
- Hyam, R. 1990: *Empire and sexuality: The British experience*. Manchester: Manchester University Press.
- Ingram, B.G., Bouthillette, A.M. and Retter, Y., editors, 1997: *Queers in space. Communities, public places, sites of resistance*. Seattle, WA: Bay Press.
- Jessurun d'Oliveira, H.U. 1993: Lesbians and gays and the freedom of movement of persons. In Waaldijk, K. and Clapham, A., editors, *Homosexuality: a European Community issue. Essays on lesbian and gay rights in European law and policy*, Dordrecht: Martinus Nijhoff, 289-316.
- Johnston, L. 1996: Embodying tourism. In *Proceedings of Tourism Down Under II Conference*, 3-6 December, University of Otago, Dunedin, New Zealand. Copy available from the author, Department of Geography, University of Edinburgh, Drummond

- Street, Edinburgh EH8 9XP, UK.
- Kelley, P., Pebody, R. and Scott, P. 1996: *How far will you go? A survey of London gay men's migration and mobility*. London: GMFA.
- Knopp, L. 1987: Social theory, social movements and public policy: recent accomplishments of the gay and lesbian movements in Minneapolis, Minnesota. *International Journal of Urban and Regional Research* 11, 243-61.
- Knopp, L. 1990a: Some theoretical implications of gay involvement in an urban land market. *Political Geography Quarterly* 9, 337-52.
- Knopp, L. 1990b: Exploiting the rent-gap: the theoretical significance of using illegal appraisal schemes to encourage gentrification in New Orleans. *Urban Geography* 11, 48-64.
- Knopp, L. 1992: Sexuality and the spatial dynamics of capitalism. *Environment and Planning D: Society and Space* 10, 651-69.
- Knopp, L. 1995: Sexuality and urban space: a framework for analysis. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 149-61.
- Kramer, J.L. 1995: Bachelor farmers and spinsters: gay and lesbian identities and communities in rural North Dakota. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 200-13.
- Lane, C. 1995: *The ruling passion. British colonial allegory and the paradox of homosexual desire*. Durham, NC: Duke University Press.
- Longhurst, R. 1995: Geography and the body. *Gender, Place and Culture* 2, 97-105.
- Loyd, B. and Rowntree, L. 1978: Radical feminists and gay men in San Francisco: social pace in dispersed communities. In Lanegran, D. and Palm, R., editors, *Invitation to geography*, New York: McGraw Hill, 78-88.
- Manalansan IV, M. 1995: In the shadow of Stonewall: examining gay transnational politics. *GLQ: a Journal of Lesbian and Gay Studies* 2, 425-38.
- McDowell, L. 1995: Bodywork. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 75-95.
- Mercer, K. 1993: Reading racial fetishism: the photographs of Robert Mapplethorpe. In Apter, E. and Pietz, W., editors, *Fetishism as cultural discourse*, Ithaca, NY: Cornell University Press, 307-29.
- Moran, L.J. 1996: *The homosexual(ity) of law*. London: Routledge.
- Mort, F. 1995: Archaeologies of city life: commercial culture, masculinity, and spatial relations in 1980s London. *Environment and Planning D: Society and Space* 13, 573-90.
- Mosse, G.L. 1985: *Nationalism and sexuality: middle class morality and sexual norms in modern Europe*. Madison, WI: University of Wisconsin Press. モッセ, G. L. 著, 佐藤卓己, 佐藤八寿子 訳 (1996) 『ナショナリズムとセクシュアリティ: 市民道徳とナチズム』(ハルマケイア叢書 7) 柏書房.
- Munt, S. 1995: The lesbian flaneur. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 114-25.
- Murray, A. 1995: Femme on the streets, butch in the sheets (a play on whores). In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 66-74.
- Parker, A., Russo, M., Sommer, D. and Yaeger, P., editors, 1992: *Nationalisms and sexualities*. London: Routledge.
- Peace, R. forthcoming: Abject sexualities: lesbian identity, geography and policy. In Bell, D., Binne, J., Longhurst, R., Peace, R., Wakeford, D. and Holliday, R. *Pleasure zones. Bodies, cities and spaces*. Syracuse, NY: Syracuse University Press.
- Peake, L. 1993: 'Race' and sexuality: challenging the patriarchal structuring of urban social space. *Environment and Planning D: Society and Space* 11, 415-32.
- Phelan, S. 1995: The space of justice: lesbians and democratic politics. In Wilson, A., editor, *Simple matters of justice: theorising lesbian and gay politics*. London: Cassell, 193-220.
- Probyn, E. 1995: Lesbians in space: gender, sex and the structure of missing. *Gender, Place and Culture* 2, 77-84.
- Probyn, E. 1996. *Outside belongings*. London: Routledge.
- Quilley, S. 1995: Manchester's 'village in the city': the gay vernacular in a post-industrial landscape of power. *Transgressions: A Journal of Urban Exploration* 1, 36-50.
- Robson, E. 1991: Space, place and sexuality in Hausaland, northern Nigeria. Paper presented at the ERASMUS Geography and Gender Course, University of Durham, and available from the author, Department of Environmental Social Sciences, Keele University, Newcastle under Lyme, Staffordshire ST5 5BG, UK.
- Rothenberg, T. 1995: 'And she told two friends': lesbians creating urban social space. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 165-81.
- Sanders, J., editor, 1996: *Snud: architectures of masculinity*. Princeton, NJ: Princeton Architectural Press.
- Shakespeare, T., Gillespie-Sells, K. and Davies, D. 1996: *Untold desires: the sexual politics of disability*. London: Cassell.
- Skelton, T. 1995: 'Boom, bye, bye': Jamaican ragga and gay resistance. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 264-83.
- Smith, A.M. 1994: *New right discourse on race and sexuality: Britain 1968-1990*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Smyth, C. 1995: Crossing the tracks. *Perversions* 5, 43-53.
- Stychin, C. 1995: *Law's desire: sexuality and the limits of justice*. London: Routledge.
- Urbach, H. 1996: Closets, clothes, disclosure. In McQuorquodale, D., Ruedi, K. and Wigglesworth, S., editors, *Desiring practices: architecture, gender and the interdisciplinary*, London: Black Dog Publishing, 246-63.
- Valentine, G. 1993a: (Hetero) sexing space: lesbian perceptions and experiences of everyday spaces. *Environment and Planning D: Society and Space* 11, 394-413. バレンタイン, G. 著, 福田珠

- 己訳 (1998) 「(異)性愛化した空間: 日常空間に対するレズビアン知覚と経験」空間・社会・地理思想 3, pp.77-95.
- Valentine, G. 1993b: Negotiating and managing multiple identities: lesbian time-space strategies. *Transactions, Institute of British Geographers* NS 18, 237-48.
- Valentine, G. 1993c: Desperately seeking Susan: a geography of lesbian friendships. *Area* 25, 109-16.
- Valentine, G. 1995: Out and about: geographies of lesbian landscapes. *International Journal of Urban and Regional Research* 19, 96-112.
- Valentine, G. 1996: An equal place to work? Discrimination and sexual citizenship in the European Union. In Garcia-Ramon, M.D. and Monk, J., editors, *Women of the European Union; the politics of work and daily life*, London: Routledge, 111-25.
- Valentine, G. 1997: Making space: lesbian separatist communities in the United States. In Cloke, P. and Little, J., editors, *Contested countryside cultures*, London: Routledge, 109-22.
- Warner, M., editor, 1993: *Fear of a queer planet. Queer politics and social theory*. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.
- Weightman, B. 1981: Commentary: towards a geography of the gay community. *Journal of Cultural Geography* 1, 106-12.
- Weston, K. 1995: Get thee to a big city: sexual imaginary and the great gay migration. *GLQ: A Journal of Lesbian and Gay Studies* 2, 253-77.
- Whittle, S. 1994: Consuming differences: the collaboration of the gay body with the cultural state. In Whittle, S., editor, *The margins of the city, Gay men's urban lives*, Aldershot: Ashgate Publishing, 27-41.
- Wilson, A., editor, 1995: *A simple matter of justice: theorising lesbian and gay politics*. London: Cassell.
- Wincapaw, C. forthcoming: Lesbian, bisexual women's electronic mailing lists as sexualised spaces. *Journal of Lesbian Studies*.
- Winchester, H. and White P. 1988: The location of marginalised groups in the inner city, *Environment and Planning D: Society and Space* 6, 37-54.
- Woodhead, D. 1995: 'Surveillant gays': HIV, space and the constitution of identities. In Bell, D. and Valentine, G., editors, *Mapping desire. Geographies of sexualities*, London: Routledge, 231-44.

解題 (杉山和明)

ここに訳出したのは、セクシュアリティというカテゴリーに注目する研究が、近年の地理学のなかでどういった問題を提起しているのかについての簡潔なレビューである。ゲイ・コミュニティ、セクシュアリティの権利について画期となる議論を行っている Binnie, 女

性が犯罪に対して抱く恐怖の空間、セクシュアリティの社会的構築、食と消費、子ども観、若者文化といった広範な題材について驚くほど多くの論文を、地理学のみならず近接分野のジャーナルにも発表している Valentine。著者たちは昨今のフェミニスト地理学やセクシュアリティの地理を扱った研究を先導する最も重要な研究者であろう。特に Valentine は、邦訳 (バレンタイン 1999) もあり、子どもの地理に関するレビュー (大西 2000) のなかでも重要な論客として紹介されているように、日本の地理学でも注目されつつある。

本論で著者たちは、地理学内外の文献を丹念に紹介しながら、都市地理学、都市/農村の地理、市民権の地理という3つの分野でレズビアン・ゲイ・両性愛を扱った議論を批評する。そして、そこからみちびかれた課題を人文地理学全体が取り組むべきものとして捉えようとしている。可視的なコミュニティから不可視のネットワーク、いくつもの空間スケールにおける移動の差異とその政治・経済、法と空間ならびにセクシュアリティの権利との関係など論点は非常に広範囲に渡っている。80年代後半以降、特定のアイデンティティが交渉される特定の空間に注目する多くの研究が、程度の差はあれ、知、権力、主体、アイデンティティそして空間とのあいだの複雑な関係を明らかにしてきているが、そのなかでもますますセックス・ジェンダー・セクシュアリティは、多様な議論の焦点となってきたのである。

著者たちは後半部で、セックスやセクシュアリティの本質論を脱構築しようとするクイア理論に、可能性を見出すとともに「アンビバレントでありつづけ」ようとする。セクシュアリティは、男女を弁別する生物学的なセックスという本質論を疑いえない前提として、様々な言説のかたちをとりながら、身体・欲望・精神を形成している (バトラー 1999)。根底的に社会的構築物であるはずの多様なセクシュアリティは、それゆえ、固着する必要はなく攪乱可能でありそうすべきだとする戦略としてのクイア・ポリティクスを重要視する一方で、著者たちは安易な開放を唱えることをよしとしない。著者たち自らがゲイでありレズビアンであって、権利を主張する運動の主体として抜き差しならない境遇に在ること、つまり実際に交渉される空間へ絶えずコミットしていることがもたらす迷いのだろう。「向かうところがない」ということが、ニヒリズム

や、向かうべきところを発見すべきだとの脅迫感を志向させるばかりだとは限らない。差異のポリティクスが攪乱可能であることを認め、かつ、ある場に留まる選択が、ポリティクスの差異にとって戦略となりうることをも知ろうとする、そうした選択肢があることも認めること、著者たちはそのような両義的な立場を取ろうとしているのではないだろうか。そうした今この静止点が、抵抗の地理を構成できうとすれば、まさしく「アイデンティティのパフォーマンスが、異なる場所にいる異なる人々によって、異なって読まれる」からにほかならない。

*

欧米の地理学内ではセクシュアリティを扱った研究が盛んに行われている一方、日本では正面から取りあげた研究が非常に少ない。ジェンダーやセクシュアリティの地理が今後日本でも議論されることがあるのな

ら、それらが喚起すべきことは、この種のトピックが扱われることが極度に少ないわれわれの現状を「クイア的に読み解くこと」の必要性であるのかもしれない。

文献

- 大西宏治 (2000) 「子どもの地理——その成果と課題——」 人文地理 52, pp. 149-172.
- バトラー, J. 著, 竹村和子訳 (1999) 『ジェンダー・トラブル: フェミニズムとアイデンティティの攪乱』 青土社
- バレンタイン, G. 著, 福田珠己訳 (1998) 「(異) 性愛化した空間: 日常空間に対するレズビアン知覚と経験」 空間・社会・地理思想 3, pp. 77-95. Valentine, G. 1993a: (Hetero)sexing space: lesbian perceptions and experiences of everyday spaces. *Environment and Planning D: Society and Space* 11, 394-413.